

項 目		内 容
供給	1. 国内	(1) 生産・処理動向調査（（一社）日本食鳥協会令和8年7月末時点まとめ）によると、6月の処理出荷推計実績は処理羽数が前年比100.9%、処理重量は同103.6%となった。現時点での7月の予測は処理羽数が前年比97.2%、処理重量が同98.1%の見通しとなった。8月は処理羽数が同97.4%、処理重量が同97.9%。また、9月は処理羽数、処理重量ともに前年比96.6%の予測。 なお、R8年7月以降の数値は取りまとめ時点の予測値であり、気象条件や需給環境の変化によって大きく変動する可能性があるため、今後の動向を注視する必要がある。
	2. 輸入	(1) 財務省の貿易統計によると、令和8年6月の鶏肉（原料肉）の輸入量は前月から+5千トンの55.9千トン、国別ではブラジルが前月▲0.2千トンの38.6千トン、タイが+5.4千トンの17.1千トンとなった。 （独）農畜産業振興機構(ALIC)による今後の輸入量見通しでは、7月は56.1千トン（前年比116.3%）、8月は57.6千トン（同116.1%）とされ、2か月続けて大幅に増加する予測である。要因としては、「輸入量は、主要輸入先国のブラジルでの生産が依然として堅調であること等から、7月、8月ともに前年同月を大幅に上回ると予測する。なお、3か月平均でも、前年同期をかなり大きく上回ると予測する。」とされている。 (2) 令和8年6月の鶏肉調整品の輸入量は前月から+10.0千トンの53.3千トン、国別では中国が+5.8千トンの23.7千トン、タイが+4.3千トンの28.4千トンとなった。 (3) 株式会社産新聞社発行の畜産日報によると、6月の輸入鶏肉（モモ肉）の価格はブラジル産で650円/kgから700円/kg（前年475円/kg）、タイ産が700円/kg中心（同500円/kg）となっている。要因としては「輸入現物の足元の商いは静かな状況となっている。ただ、唱え値はブラジルの輸入回復に伴い200円UPを中心に下げ基調にある。タイ産は依然として生産遅れの影響で入荷が少ないものの、ブラジル産に連動する形で下落している。」と報告されている。
要	1. 家計消費	(1) 総務省統計局発表の家計調査報告（全国・二人以上の世帯1世帯あたり）によると、令和8年6月の生鮮肉消費（購入）は数量4,004kg（前年比98.9%）、金額6,983円（同106.6%）と、数量は前年を下回ったものの、金額は前年を上回った。鶏肉は数量1,499g（同102.8%）・金額1,724円（同109.7%）・単価115.04円/100g（前年同月差+7.2円）と数量・金額・単価ともに前年を上回った。牛肉は数量が前年を下回った一方、金額は前年を上回った。豚肉は数量・金額ともに前年を上回った。
	2. 量販・卸	(1) 一般社団法人全国スーパーマーケット協会の販売統計調査によると、令和8年6月の食品売上高は全店ベースで前年比101.2%と前年を上回り、生鮮3部門の売上高は全店ベースで同103.9%、既存店ベースは同102.6%。畜産部門の売上高は約1,342億円で全店ベース同104.7%、既存店ベース同103.2%となった。 また同社が取りまとめたスーパーマーケット景気動向調査によると、「相場高や原料高の影響が続くなか、鶏肉、挽肉、豚肉の一部商品など比較的低価格感のある商品に堅調な動きがみられた。豚肉では輸入豚肉や切落し、薄切り、挽肉など価格訴求しやすい商品が比較的堅調であった一方、国産豚では高値感や販売点数の減少もみられた。鶏肉や挽肉も売上を支援したが、相場高は続いており、利益面では厳しさが続く。牛肉は輸入牛や高単価商品などに伸び悩みがみられた一方、国産牛や和牛、焼肉用では父の日需要などにより伸長したという店舗もあった。加工肉はハム、ベーコン、ソーセージ類を中心に販売点数の減少がみられた一方、肉惣菜や半調理品には堅調な動きもみられた。」と報告されている。
	3. 業務・加工筋	(1) 日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べによると令和8年6月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比100.8%の4.7千トンとなった。うち国内品は同100.5%の3.7千トン、輸入品については同102.0%の1.0千トンと輸入品・国内品ともに前年を上回る結果となった。
在庫	1. 令和8年6月	(1) （独）農畜産業振興機構(ALIC)の6月末時点推定期末在庫では国産品35.2千トン（前年比118.2%）、輸入品126.3千トン（同98.1%）、合計で161.5千トン（同101.9%）となった。
	2. 見通し	(1) （独）農畜産業振興機構(ALIC)が発表した鶏肉需給表では、6月の出荷量は国産品146.3千トン（前年比105.7%）、輸入品51.8千トン（同101.7%）、合計198.1千トン（同104.6%）となり、前年からは国産品・輸入品ともに増加した。 今後6月以降の見通しは、「出荷量は、7月は前年同月並みの一方、8月は前年同月をわずかに上回ると予測する。期末在庫は、7月もかなりの程度、8月はかなり大きく、いずれも前年同月を上回ると予測する。なお、過去5年での同月平均との比較でも、7月はかなりの程度、8月はかなり大きく、いずれも前年同期を上回る（7月：7.5%増、8月：11.7%増）と予測する。」とされている。
相場	1. 令和8年7月動向	(1) 令和8年7月の月平均相場は、モモ肉823円/kg（前月差▲9円）・ムネ肉469円/kg（同▲8円）正肉合計で1,292円/2kgと前月差▲17円、前年同月差▲66円となった。株式会社産新聞社発行の畜産日報によると、「7月最終週に入り、国産生鮮モノの荷動きは一服している。それに伴って相場も下げ基調となり、日経平均で810円台まで下げた。ムネは460円台とほぼ横ばいで、荷動きも価格次第とはいえず、それなりに引合いがみられる。九州エリアでは「令和8年熊本地震」による物流などへの影響が懸念される。一方、輸入品は目立った引合いはなく、定期定量の商いが続く。輸入量が回復傾向にあるなかで、相場の潮目が変わるタイミングは夏場以降とみられ、現物については依然として弱保合となっている。」と報告されている。
	2. 見通し	(1) 一般社団法人日本食鳥協会が公表する「生産・処理動向調査」によると、7月の国内鶏肉生産は、処理羽数・処理重量ともに前年同月を下回る見通しである。処理重量減少の要因としては、産地における気温上昇の影響による生体重の低下などが挙げられる。なお、現時点の数値は計画値に基づく予測であり、今後の実績動向については引き続き注視する必要がある。モモ肉市場では、ブラジル産鶏モモ肉の在庫増加および輸入量の拡大を背景に、一部で400円/kg台での販売事例もみられている。今後、量販店における売場構成や品揃え、販促頻度の変化を注視する必要がある。また、年末需要を見据え、一部企業では国産鶏モモ肉凍結品の確保に向けた動きがみられている。ムネ肉市場については、引き続き加工適性の高い輸入品の流通拡大が見込まれる。店頭では、特売を強化して販売数量の維持を図る量販店と、収益性を重視する量販店との二極化が進行している。量販店の販売方針や店頭価格の変化に加え、気温上昇に伴う消費動向の変化も予想されることから、今後の国産鶏モモ肉の需要動向を注視する必要がある。 以上の市場環境およびお盆期間中の産地連休を踏まえると、8月の相場は国産モモ肉が820円/kg前後、国産ムネ肉が465円/kg前後で推移するものと予測する。

実績

生産状況

単位:千羽、千トン、%

	R7年累計(推計)		R8年6月末績(推計)		R8年7月計画		R8年8月計画		R8年9月計画	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
入雛羽数	805,066	101.4%	59,513	101.6%						
処理羽数	763,029	101.6%	62,831	100.9%	61,358	97.2%	59,743	97.4%	60,873	96.6%
処理重量	2,299.0	101.1%	194.6	103.6%	183.8	98.1%	177.4	97.9%	180.7	96.6%

※参考資料: 株式会社全国食鳥新聞社発行「PMN」

輸入動向

単位:千トン、%

品名	鶏肉			調製品			合計			比率	
履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	鶏肉	調製品
R6年累計	639.2	584.9	109.3	503.2	478.0	105.3	1,142.4	1,062.9	107.5	56.0	44.0
R7年累計	591.5	639.2	92.5	529.8	503.2	105.3	1,121.3	1,142.4	98.2	52.8	47.2
R8年2月	46.2	47.7	96.9	40.3	33.8	119.3	86.5	81.5	106.2	53.4	46.6
R8年3月	48.1	42.3	113.7	44.1	43.5	101.3	92.2	85.8	107.4	52.2	47.8
R8年4月	51.9	47.7	108.8	48.7	43.3	112.5	100.7	91.0	110.6	51.6	48.4
R8年5月	50.9	48.5	104.9	43.3	43.3	100.0	94.2	91.8	102.6	54.1	45.9
R8年6月	55.9	51.6	108.4	53.3	44.0	121.1	109.2	95.6	114.2	51.2	48.8

※参考資料: (独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

鶏肉の消費動向

単位:グラム、円、%

履歴	数量			金額		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R6年平均	1,552	1,495	103.8	1,586	1,547	102.5
R7年平均	1,555	1,552	100.2	1,682	1,586	106.0
R8年2月	1,484	1,499	99.0	1,688	1,601	105.4
R8年3月	1,632	1,650	98.9	1,808	1,719	105.2
R8年4月	1,548	1,549	99.9	1,750	1,630	107.4
R8年5月	1,520	1,564	97.2	1,756	1,664	105.5
R8年6月	1,499	1,458	102.8	1,724	1,572	109.7

※参考資料: 総務省統計局HP「家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)」

相場(年別・暦年)

単位:円

	モモ肉	ムネ肉	計
H30年	595	282	877
R2年	585	243	828
R2年	614	269	883
R3年	641	313	954
R4年	662	348	1,010
R5年	730	395	1,125
R6年	655	369	1,024
R7年	774	500	1,274

在庫状況(推定)

単位:千トン、%

履歴	国産			輸入品			合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R8年2月	37.1	25.7	144.1	114.1	139.2	82.0	151.2	164.9	91.7
R8年3月	37.8	25.8	146.8	114.6	131.2	87.3	152.5	157.0	97.1
R8年4月	36.3	25.0	145.6	113.2	127.4	88.9	149.6	152.4	98.2
R8年5月	36.1	27.0	133.8	122.2	128.2	95.4	158.3	155.2	102.1
R8年6月	35.2	29.8	118.2	126.3	128.8	98.1	161.5	158.6	101.9

※参考資料: (独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

出回り量(推定)

単位:千トン、%

履歴	国産			輸入品			合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R6年累計	1,721.2	1,689.0	101.9	619.9	606.3	102.2	2,341.1	2,295.4	102.0
R7年累計	1,725.4	1,721.2	100.2	614.8	619.9	99.2	2,340.2	2,341.1	100.0
R8年2月	139.2	136.8	101.8	44.3	47.6	93.1	183.6	184.4	99.5
R8年3月	146.4	146.0	100.3	47.6	50.3	94.6	194.0	196.3	98.9
R8年4月	149.9	148.9	100.7	53.3	51.5	103.5	203.2	200.4	101.4
R8年5月	146.2	143.9	101.7	41.9	47.8	87.7	188.2	191.6	98.2
R8年6月	146.3	138.4	105.7	51.8	50.9	101.7	198.1	189.3	104.6

※参考資料: (独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

相場(月別)

単位:円、%

品名	モモ肉			ムネ肉			正肉合計		
履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R5年度平均	700	702	99.7	384	371	103.5	1,084	1,073	101.0
R6年平均	655	730	89.7	369	395	93.4	1,024	1,125	91.0
R7年平均	774	655	118.2	500	369	135.5	1,274	1,024	124.4
R8年4月	831	799	104.0	490	444	110.4	1,321	1,243	106.3
R8年5月	839	842	99.6	483	497	97.2	1,322	1,339	98.7
R8年6月	832	832	100.0	477	530	90.0	1,309	1,362	96.1
R8年7月	823	803	102.5	469	555	84.5	1,292	1,358	95.1
R8年8月	(820)	778	105.4	(465)	568	81.9	(1,285)	1,346	95.5
R8年9月	(820)	757	108.3	(465)	573	81.2	(1,285)	1,330	96.6

※()は見直し